

種 粉 脱 水 機

取扱説明書

DS-15

も く じ

ご使用になる前に

- はじめに 1
- 安全のため必ずお守りください 2
- 各部の名称とはたらき 5
- 使用前の準備 6

ご使用にあたって

- 作業のしかた 7

知っておきたいこと

- メンテナンス 10
- 長期格納のしかた 10
- 不調の原因と処置 11

そ の 他

- 仕様 11
- 消耗部品 11
- 安全確認一覧表 12

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書には、本機の正しい安全な使いかた、保守点検などについて記載してあります。

本機を安全に正しくお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みになって、本機の構造などをじゅうぶんに理解ください。

なお、仕様などの変更により、お求めいただいた製品と、本書の内容やイラストの一部が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

お読みになった後、必ず大切に保管し、わからないことがあったときは、いつでも取出してご利用できるようにしておいてください。

■ 危険防止

この取扱説明書では、必ず守っていただきたい重要な注意事項について、次のように表示しています。

危険：注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。

警告：注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。

注意：注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

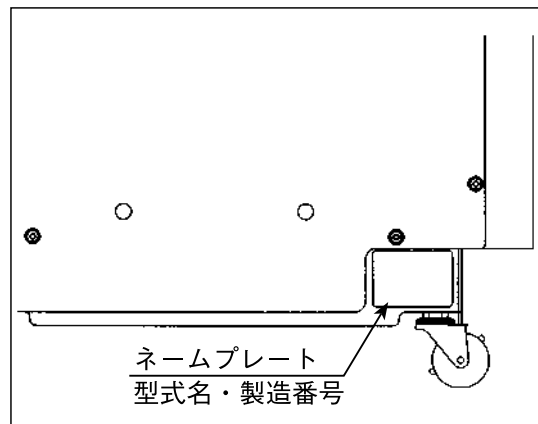
補足：その他、使用上役立つ補足説明を示します。

■ ご不明な点や不具合がありましたら

本書や本機についてご不明な点や、不具合がありましたら、無理に使用せず、ご購入店または弊社（本書のうら表紙に記載）までお問い合わせください。

軽い故障でも重大事故につながる可能性がありますので、早期発見に心がけ、早めに整備してください。

故障や不具合が発生したときは、型式名と製造番号を必ずご連絡ください。



警告

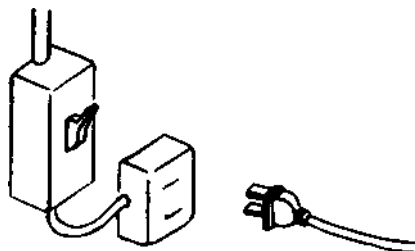
- 本機は水稲用種籾の脱水機として設計されています。この他の用途には使用できません。
- 改造して使用することは、しないでください。

⚠ 安全のため必ずお守りください

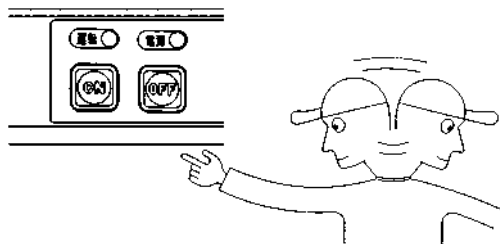
使用前にこの取扱説明書をよく読み、理解する

機械を他人に貸す場合は取扱い方法をよく説明し、あらかじめ取扱説明書をよく読ませる

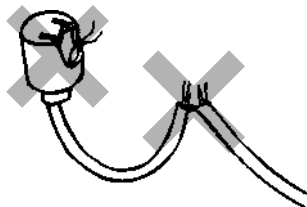
漏電ブレーカの設置されたコンセント使用（感電防止）



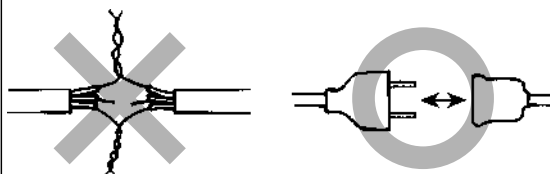
周囲の安全を確認してからスイッチON



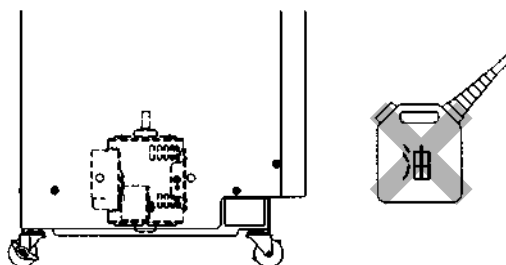
コードやプラグがいたんだらすぐに交換（感電・火災防止）



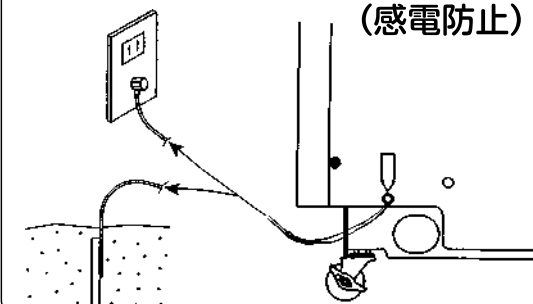
電線コードの延長はオス・メスの防水コネクタで接続（感電・火災防止）



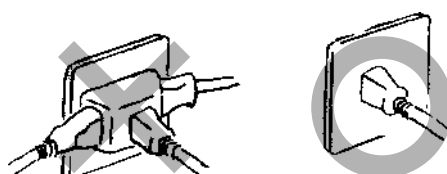
モータの近くには燃えやすいものを置かない（火災防止）



アースコードは必ず接続する。（感電防止）

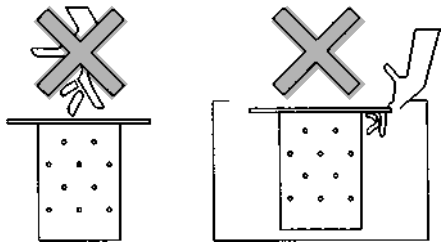


タコ足配線はしない

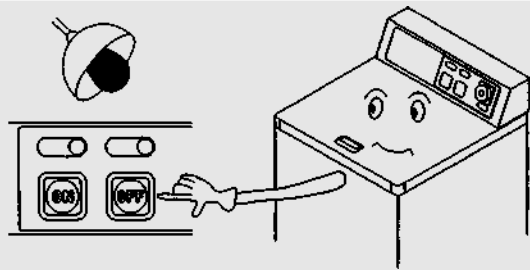


⚠ 安全のため必ずお守りください

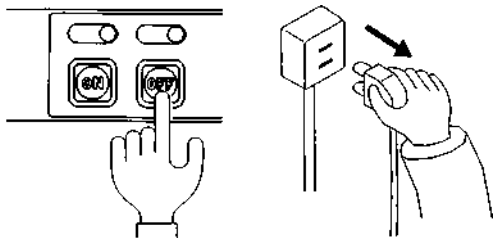
回転中は脱水槽・脱水槽周辺に絶対手を入れない



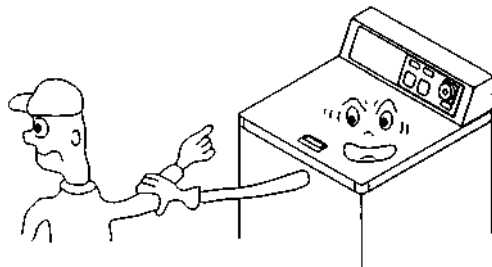
停電やブレーカ作動時はすぐにスイッチを切る



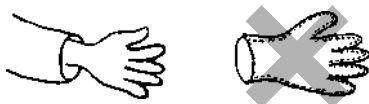
異常が発生した場合はすぐにスイッチを切りプラグを抜く



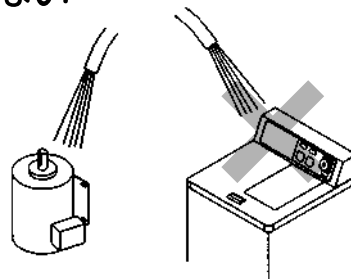
機械から離れるときは必ずスイッチを切る



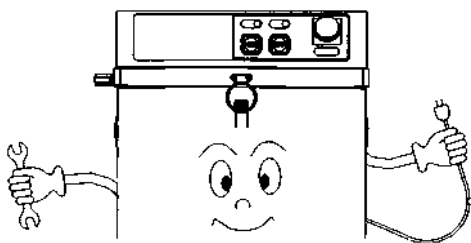
作業するときは手袋は着用しない
(巻込み防止)



モータや電装ボックスには水をかけない



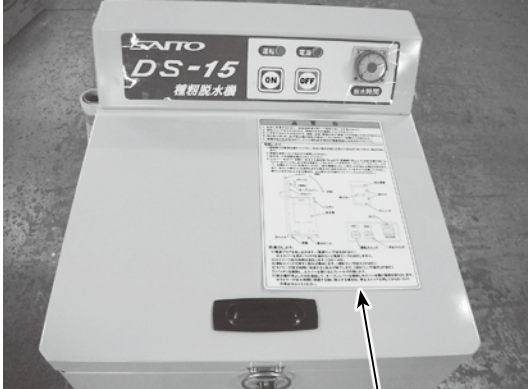
点検・調整はスイッチを切り、プラグを抜いてから



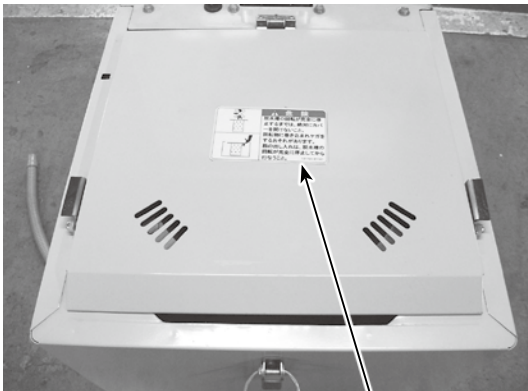
⚠️ 安全のため必ずお守りください

使用前に安全ラベルをよく読む

- 種籾脱水機には次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。



①



②

① 13112-3212-1

警 告	
<p>1. 安全に作業するために、取扱説明書を読んで機械の使い方を覚えること。 2. 運転スイッチを入れるときは、両手の安全を確認してから行なうこと。 3. ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整は必ず電源プラグを抜いてから行なうこと。 4. 籾の取り出しは、必ず脱水槽の回転が止まってから中カバーを開けて行なうこと。 5. 感電のおそれがあるので、アース線必ず取付け電線部品には水をかけないこと。</p>	
<p>取扱いかた</p> <p>1) 乾燥地での使用は避けてください。本体に熱が起る場合や排水がうまくできない場合があります。 2) 車輪は確実にロックをかけて使用してください。 3) 排水ホースを取納位置から外してください。 4) 上カバー・中カバーを開け、脱水する種籾15kg以下(乾燥籾12kg以下)を脱水槽内筒に沿うように広げて入れ、必ず押え板を脱水槽のゴムリングの下に押し込んで中カバーを開きオープンレバーでロックし、上カバーを閉めてパッチリを留めてください。押え板を入れないと籾ネットが飛び出し切れる場合があります。劣化した籾ネットを使用しますと脱水中に切れる原因になります。籾ネットを2つ以上入れる場合は、上の籾ネットの結び口を下に入れてください。</p>	
<p>作業のしかた</p> <p>1) 電源プラグを差し込みます。(電源ランプ「赤色」が点灯) ※上カバーを開きパッチリを留めないでセンサーが作動せず、電源ランプは点灯しません。 2) タイマーで脱水時間を設定します。 注意 脱水時間を2分未満で設定する場合は、脱水作業時間を3分以上空けてください。 ※モータが焼損するおそれがあります。</p> <p>3) 運転スイッチを押すと脱水が開始します。(運転ランプ「緑色」が点灯) ※始動直後本機が低速に回転したら、直ちに停止スイッチを押して上カバーを開けて脱水槽が完全に停止してから、籾の収まり位置を再確認してください。 4) タイマーが設定時間に到達するとブザーが鳴り脱水が終了します。(運転ランプ「緑色」が消灯) 5) パッチリを解除し、上カバーを開けるとブザーが止まりブレイキが作動します。 6) 脱水槽が停止したのを確認して、オープンレバーを解除して中カバーを開けて籾を取り出します。 ※タイマーが設定時間に到達する前に停止する場合は、必ず停止スイッチを押してから5)・6)の作業を行ってください。</p>	

② 13112-3114-1

	危 険
	<p>脱水槽の回転が完全に停止するまでは、絶対にカバーを開けないこと。 回転物に巻き込まれケガをするおそれがあります。 籾の出し入れは、脱水槽の回転が完全に停止してから行なうこと。</p>

- ラベルはいつもきれいにし、ハッキリと見えるようにしてください。
- シンナーやアセトンなどの溶剤ではふかないでください。文字や絵が消えることがあります。
- ラベルが損傷・破損した場合は新しいラベルと交換してください。
- 安全ラベルが貼付けされている部品を交換したときは、必ず新しい安全ラベルも取寄せ、取外した部品と同じ場所に貼ってください。

各部の名称とはたらき

電源ランプ

差込みプラグが電源コンセントに差込まれており、かつ上カバーが閉じられていると点灯します

停止スイッチ

「OFF」を押すとタイマー設定時間内でもモータへの通電を停止し、運転ランプが消えます

電装ボックス

運転ランプ

運転スイッチがON(入)になっていると点灯します

タイマー

脱水時間を設定します。設定時間経過後モータへの通電を停止し、運転ランプが消えます

運転スイッチ

「ON」を押すと運転ランプが点灯し、脱水槽(モータ)が回転します

パッチリ

上カバーを固定します

アースコード

感電を防止します

排水ホース

汚れた水、根ぐずが排出されます

中カバー (安全カバー)

上カバー

オープンレバー

中カバーをロックします

脱水槽

催芽粉を入れて脱水します

フレーム

内部に脱水槽があります

使用前の準備

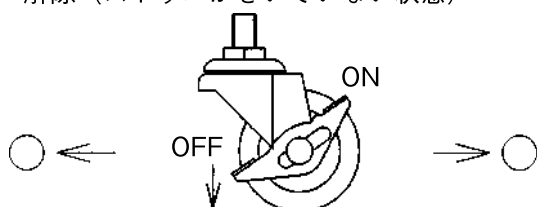
⚠ 警告

- 準備作業は、必ず電源コードの差込みプラグを抜いた状態で行なってください。
- 外したカバーは、もと通りに組付け、ボルトは確実に締付けてください。

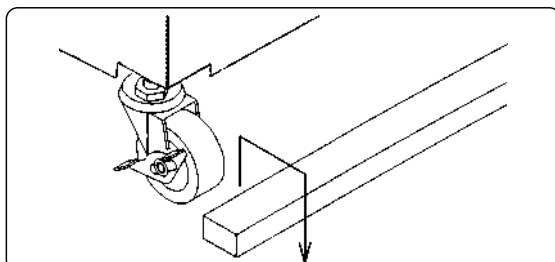
1. 機械の移動と設置

- ① 機械の移動は、自在キャスターのストッパを解除（OFF側を押し込む）して移動させてください。

解除（ストッパがきいていない状態）

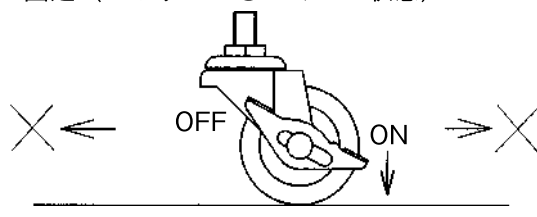


- ② 段差のあるところでは、必ず機体を持ち上げて、段差を回避してから移動させてください。



- ③ 機械を設置させる場合は、できるだけ平坦なところに設置し、自在キャスターのストッパをきかせて（ON側を押し込む）、しっかりと固定させてください。

固定（ストッパがきいている状態）



重要

機械の移動時に、自在キャスターのストッパをきかせて移動させたり、段差の大きい所で無理に衝突させたりすると破損する場合があります。

2. 排水ホースの設置

排水ホースをカナグ（ハイスイホース）から外し、作業中排水可能な方向へ向けて置いてください。

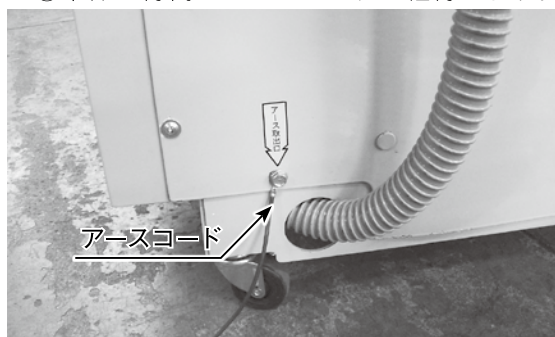


3. アースの接続

⚠ 警告

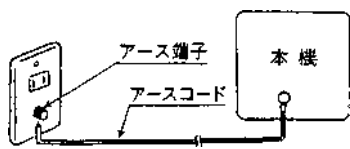
- アースコードは必ず接続してください。アースを接続しないと感電の危険があります。
- アースは、ガス管や水道管、電話や避雷針のアース線には絶対に接続しないでください。
- アースコードを延長して使用する場合は、必ず1.25mm²以上のコードを使用してください。

- ① 本体に付属のアースコードを組付けます。



②アースコードの先端は、次のいずれかの方法で必ずアースしてください。

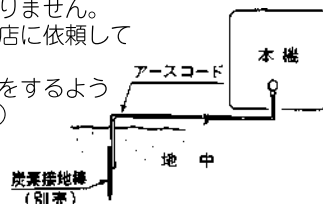
- コンセントにアース端子がついている場合はアース端子に接続してください。



- コンセントにアース端子がない場合は炭素接地棒を使用してください。
注) 1. 本機に炭素接地棒は含まれておりません。
この場合アース工事は電気工事店に依頼してください。

(電気工事士の有資格者が工事をするように法令で定められています。)

2. アース工事は有料です。
3. 炭素接地棒は必ず地中に埋設してください。



4. 電源盤コンセントの確認

⚠ 警告

- 電源盤コンセントは漏電ブレーカ付きのコンセントを使用してください。
- 電源は必ず交流100Vを使用し、直流100V（発電機など）での使用はしないでください。
- 電源コードを延長して使用する場合は、必ず0.75mm²以上のコードを使用し、接続はオス・メスプラグを使用してください。また、タコ足配線はしないでください。
- 電源やモータの周囲に燃えやすいものを置かないでください。
0.75mm²未満のコードを使用したり、コード同士を直接よって接続しますと、コード及び接続部が過熱し、ショートや火災の危険があります。

重要

- 電源盤のブレーカ容量は10A以上必要です。
- 延長コード（コードリールなど）を使用したり、電源コードを延長して使用すると電圧が極端に低下し、モータが容量不足になることがあります。延長コードの使用や電源コードの延長は極力しないでください。

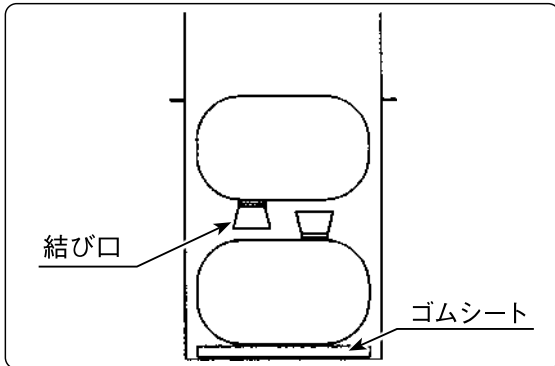
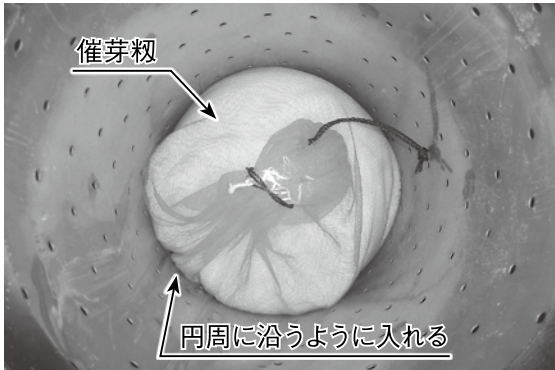
作業のしかた

⚠ 警告

- 回転している脱水槽には、絶対に手を入れないこと。
- 運転中は周囲の人を近づけないでください。特にお子さんには注意してください。
- 運転中に異常が発生した場合は、すぐにスイッチを切り、上カバーを開けてブレーキをかけ停止させてください。その後電源コードの差込みプラグを抜いてから点検してください。
- 運転中に停電または電源ブレーカが作動した場合は、すぐにスイッチを切り、上カバーを開けてブレーキをかけ停止させてください。
- 機械から離れるときは必ずスイッチを切り、電源コードの差込みプラグを抜いてください。
- スイッチを入れるときは、補助者や周囲の人に合図をして、安全をじゅうぶん確認してください。
- カバーを外したままでは絶対にスイッチを入れないでください。
- 暗いところでは作業しないでください。スイッチなどの位置がわからず危険です。
- 電源やモータの周囲に燃えやすいものを置かないでください。

1. 催芽粉ネットの投入

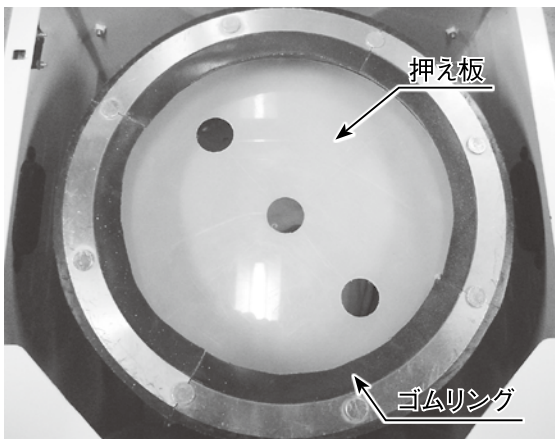
- ①上カバー、中カバーを開け脱水槽の底にゴムシートがきちんと入っているか確認します。もし、ずれていたら直してください。
- ②催芽粉を脱水槽円周に沿うように広げて入れます。（催芽粉で15kg以下です）
最上段の催芽粉ネットは結び口を下にして入れます。



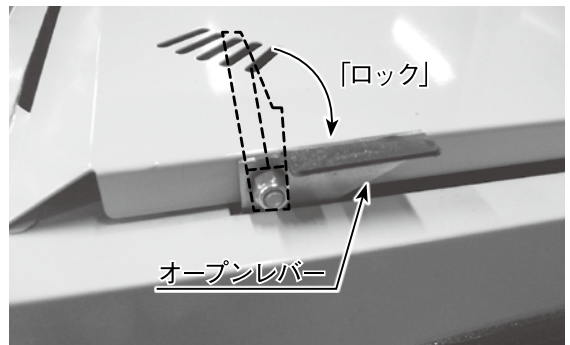
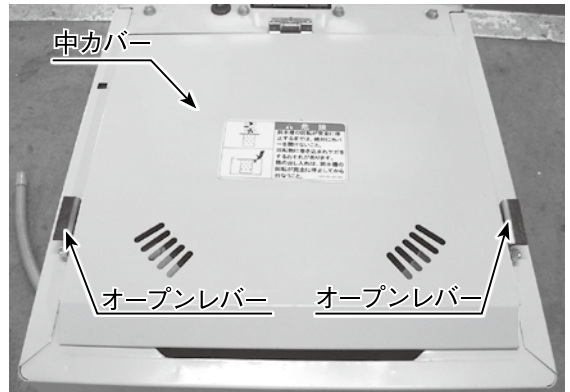
重要

- 催芽粉ネットを片寄せて入ると機体が極端に振動し、機械が損傷する場合があります。

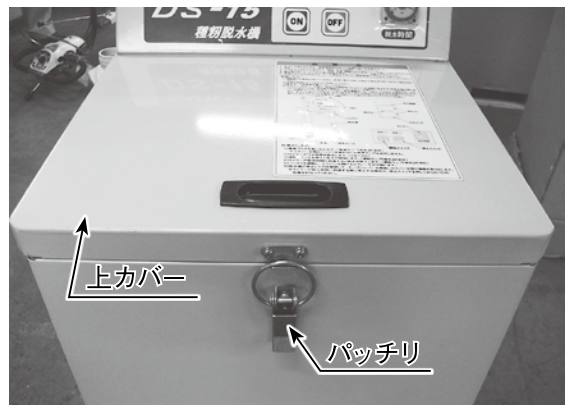
- ③押え板を催芽粉ネットの上に置きます。
この時、押え板の外周は必ずゴムリングの下になるよう押し込んでください。



- ④中カバーを閉じ、オープンレバーでロックします。



- ⑤上カバーを閉じ、パッチリでクランプします。



重要

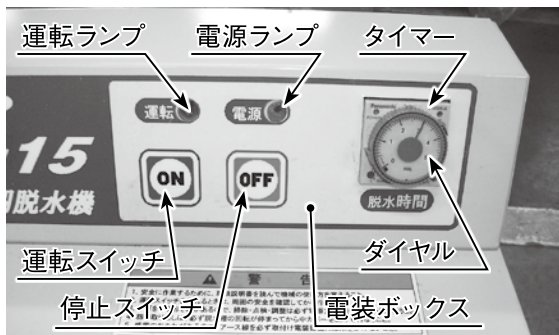
- 押え板は必ずセットしてください。押え板がないとネットが切れ、粉が飛散します。また機械の損傷につながります。

補足

- 劣化した催芽粉ネットを使用すると脱水中切れる場合があります。作業前にじゅうぶん確認してください。

2. 脱水作業

- ① 差し込みプラグを電源コンセントに差込みます。電源ランプが点灯します。
- ② タイマーのダイヤルを回して、脱水時間を設定します。
- ③ 運転スイッチ「ON」を押します。運転ランプが点灯し、脱水槽が回転します。



重要

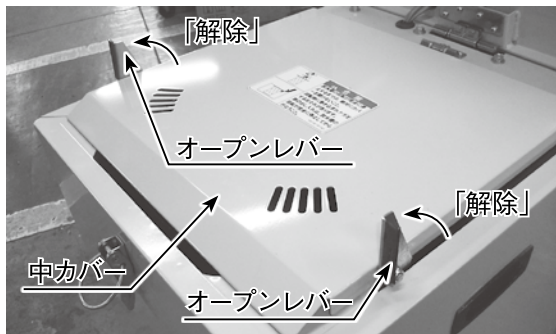
- 始動直後機体が極端に振動したら、直ちに停止スイッチ「OFF」を押して上カバーを開け、脱水槽が完全に停止してから催芽粉の収まり位置を再確認してください。機械が損傷する場合があります。
- 2分未満で脱水作業を行なう場合は、脱水間隔を3分以上空けてください。モータが、焼損するおそれがあります。

警告

- スイッチを入れるときは、補助者や周囲の人に合図をして、安全をじゅうぶん確認してください。
- ④ 設定時間に達すると自動的に運転スイッチが切れ、運転ランプが消え、ブザーが鳴ります。
- ⑤ 停止スイッチ「OFF」を押して、パッチリを解除し上カバーを開けるとブザーが止まり、ブレーキが作動します。



- ⑥ 脱水槽の回転が停止したのを確認してから、オープンレバーのロックを解除し、中カバーを開けます。



- ⑦ 押え板を取り、上から順に催芽粉ネットを取出します。

危険

- 運転ランプが消えても脱水槽は惰性で回転し続けます。上カバーを開けてブレーキを作動させ、脱水槽が完全に停止するまでは中カバーを絶対に開けないでください。
- 回転中の脱水槽には絶対に手を触れないでください。

メンテナンス

⚠ 警告

- 点検は必ずスイッチを切り、電源コードの差込みプラグを抜いてから行なってください。
- 外したカバーはもと通りに組付け、ボルトは確実に締付けてください。

■日常点検

作業前に上カバー、中カバーを開け、異物などが入っていないか確認し、もしあれば取除いてください。

■プラグ、コードの点検

差込みプラグやコード類が損傷していないか点検してください。

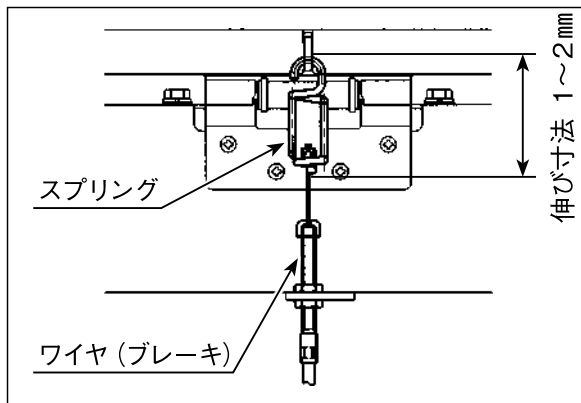
⚠ 警告

- プラグやコードが損傷した場合は、すぐに交換してください。そのまま使用しますと感電、漏電、火災の危険があります。

■ワイヤ（ブレーキ）の調整

上カバーを開けたときブレーキの効きが悪い場合、また常時ブレーキが効いている場合はワイヤ（ブレーキ）を調整してください。

- 上カバーをパッチリでクランプしたときのスプリングの伸び寸法が1～2mmとなるようにワイヤ（ブレーキ）を調整します。



重要

- ワイヤ（ブレーキ）が調整不良の状態で使用を続けると、機械の故障につながります。

長期格納のしかた

シーズンが終了して翌年まで長期間使用しないときは、格納する前に点検、整備を念入りに行なってください。

- ①各部に付着したごみなどの汚れは、水で洗い落としその後乾いた布でふき取り、じゅうぶんに乾燥させてください。
- ②機械は、雨風のあたらない、ごみのかからない場所に保管してください。もし、戸外に置く場合は雨水がかからないようにシートでおおってください。特に電装部には絶対に水が入らないようにしてください。保管中は、特にお子さんが近づかないよう注意してください。

重要

- 電装部品には水をかけないでください。感電や漏電の危険があります。
- もみなどが残っているとネズミの巣となり、コードなどがかじられて次の年の作業に支障をきたすことがありますから、きれいに除去してください。
- ワイヤが錆びつくとブレーキの作動が悪くなります。

不調の原因と処置

警告

●点検・調整をするときは、必ずスイッチを切り、電源コードを抜いてから行なってください。

現象	原因	処置	参照ページ
モータが回らない	電源ランプが点灯しない	単相100Vの電源がきていない	電源、差込みプラグ、コード類の破損確認および点検(注1)
		上カバーをパッチリでクランプしていない	確実にクランプする
		リミットスイッチの故障	交換(注2)
	電源ランプ点灯(運転ランプが点灯しない)	運転スイッチが入っていない	運転スイッチ「ON」を押す
		スイッチの故障	交換(注2)
		配線の不具合	交換(注2)
電源ランプ点灯 運転ランプ点灯	ブレーキが作用している	ワイヤ(ブレーキ)の調整	P10
モータが止まる	正規電圧がきていない	コードリールを使用している場合はコードリールの使用をやめる	
	過負荷保護機能が作動した(サーマルリレーが作動)	原因を取除く(注3)	
脱水が不じゅうぶん	脱水時間が短い	脱水時間を長くする	P9
機体が極端に揺れる	催芽粉の入れ方が片寄っている	脱水槽円周に沿うように広げて入れる	P8
	キャスターを固定していない	キャスターのストoppaをかける	P6
	傾斜地で使用している	できるだけ平坦なところに設置する	
脱水槽が止まらない	ブレーキが作用していない	ワイヤ(ブレーキ)の調整	P10

注1. ネズミなどの害によりコードが断線、短絡、漏電する場合がありますので、作業前に各コードをじゅうぶんに点検してください。

注2. 購入先に連絡してください。

注3. 異常負荷がかかるとモータ保護のため、自動的にモータが停止します。原因として異物の混入、電圧低下によるモータ負荷、配線などの不具合が考えられます。じゅうぶん点検し、原因を取除いたうえで再度運転スイッチ「ON」を押してください。

仕様

名 称	種粉脱水機	
型 式	DS-15	
全 長 (mm)	520	
全 幅 (mm)	450	
全 高 (mm)	985	
重 量 (kg)	58	
使 用 電 源 (V)	単相 100	
最 大 投 入 量 (kg)	15 (催芽粉)	
脱 水 時 間 (分)	2~5	

消耗部品

品 番	品 名	備 考
13112-1132-1	ゴム (ドラム)	
13112-1134-1	プレート (オサエ)	
13112-1135-1	ゴム (シタ)	
13112-1144-1	スイッチ (マイクロ)	
L6271-1163-2	ブレーキ (バンド)	

安全説明確認カード

説明者（販売店・農協）控

年 月 日

私は説明員から安全についての説明をききました。

ご使用者住所

氏名



販売店・農協名

担当者

型 式

製造番号

【基本事項】

チェック

1. 作業管理者を決めること。	
2. 作業に適した健康人であること。	
3. 取扱説明書をよく読み、理解していること。	
4. 使用目的が本機の要求目的と合致していること。	
5. 不当な改造をしないこと。	

【作業について】

チェック

1. 安全ラベルの注意事項を守ること。	
2. 作業場所の明るさに注意をはらうこと。	
3. アースコードを必ず接続すること。	
4. コンセントにアース端子がない場合は炭素接地棒を使用してアースすること。 この場合のアース工事は電気工事店に依頼すること。	
5. アースコードはガス管・水道管・避雷針などには絶対接続しないこと。	
6. 電源盤のコンセントは漏電ブレーカ付のコンセントを使用すること。	
7. 電源は必ず交流100Vを使用すること。直流100V(発電機など)での使用はしないこと。	
8. 電源コードを延長する場合は、オス・メスの防水コネクタを使用すること。 また、タコ足配線はしないこと。	
9. モータの周辺に燃えやすいものを置かないこと。	
10. カバーを外したままでは絶対にスイッチを入れないこと。	
11. スイッチを入れるときは周囲の人に合図をし、安全を確認すること。	
12. 運転中は作業員や補助者以外、周囲に人を近づけないこと。	
13. 作業するときは絶対に手袋は着用しないこと。	
14. 脱水槽の回転中は絶対に手をいれないこと。	
15. ごみなどを取除くときは必ずスイッチを切り、差込みプラグを抜くこと。	
16. 運転中に異常が発生したときはすぐにスイッチを切り、上カバーを開きブレーキを作動させて、脱水槽の回転を停止させること。	
17. 機械から離れるときには、必ずスイッチを切り、差込みプラグを抜くこと。	

【点検・格納について】

チェック

1. 点検・調整はスイッチを切り、差込みプラグを抜いてから行なうこと。	
2. プラグやコードが損傷したら、すぐに交換すること。	
3. モータや電装ボックスには水をかけないこと。	

安全確認一覧表

【基本事項】

1. 作業管理者を決めること。
2. 作業に適した健康人であること。
3. 取扱説明書をよく読み、理解していること。
4. 使用目的が本機の要求目的と合致していること。
5. 不当な改造をしないこと。

【作業について】

1. 安全ラベルの注意事項を守ること。
2. 作業場所の明るさに注意をはらうこと。
3. アースコードを必ず接続すること。
4. コンセントにアース端子がない場合は炭素接地棒を使用してアースすること。 この場合のアース工事は電気工事店に依頼すること。
5. アースコードはガス管・水道管・避雷針などには絶対接続しないこと。
6. 電源盤のコンセントは漏電ブレーカ付のコンセントを使用すること。
7. 電源は必ず交流100Vを使用すること。直流100V(発電機など)での使用はしないこと。
8. 電源コードを延長する場合は、オス・メスの防水コネクタを使用すること。 また、タコ足配線はしないこと。
9. モータの周辺に燃えやすいものを置かないこと。
10. カバーを外したままでは絶対にスイッチを入れないこと。
11. スイッチを入れるときは周囲の人に合図をし、安全を確認すること。
12. 運転中は作業員や補助者以外、周囲に人を近づけないこと。
13. 作業するときは絶対に手袋は着用しないこと。
14. 脱水槽の回転中は絶対に手をいれないこと。
15. ごみなどを取除くときは必ずスイッチを切り、差込みプラグを抜くこと。
16. 運転中に異常が発生したときはすぐにスイッチを切り、上カバーを開き ブレーキを作動させて、脱水槽の回転を停止させること。
17. 機械から離れるときには、必ずスイッチを切り、差込みプラグを抜くこと。

【点検・格納について】

1. 点検・調整はスイッチを切り、差込みプラグを抜いてから行なうこと。
2. プラグやコードが損傷したら、すぐに交換すること。
3. モータや電装ボックスには水をかけないこと。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求め下さい。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正オプションを使いましょう

純正オプションは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。



株式会社 齋藤農機製作所

- 本社・工場 〒998-0832 山形県酒田市両羽町332番地
TEL0234(23)1511(代) ファクシミリ0234(26)4161
- 北海道営業所 〒079-0181 北海道岩見沢市岡山町18番地
TEL0126(24)5401(代) ファクシミリ0126(24)5402
- 九州営業所 〒861-8039 熊本県熊本市東区長嶺南1丁目1番10号
TEL096(384)6865(代) ファクシミリ096(384)6864

品番 13112-3221-1